

鴨川は京都を代表する河川で、親しみを持たれつつ、時には怖れられ流れ続けている。河川敷には 芝生を植え、ベンチなども設置し憩いの場として順次整備が進められている。しかし、小学生のと きに、河川敷をいっぱいに覆っていたクローバーの白い花を摘んで花輪をみんなで作った出町の河 川敷が一面の芝生で無味乾燥に整備されているのを見たときには愕然としたのも事実である。市民 の要望とのことであるが、タンポポやクローバーなど種々の野草が咲き乱れ、子供たちの豊かな感 性を育てるという配慮もほしいものである。

明神川の流れる社家町は上賀茂地域にあり、ここで1997年(平成9)から子供たちの育成と住みよい町づくりのために活動をはじめ、社家屋敷の見学会や明神川の改修支援など種々の事業をおこなった。とくに、賀茂季鷹の歌碑や北大路魯山人生誕地石碑は、著者らが結成した賀茂文化研究会が地元住民らに働きかけて建立したものである。 (社)日本水環境学会関西支部川部会/勝矢 淳雄

参考文献

- ・秋里籬島(1780)「都名所図会」。
- ・勝矢淳雄(2000)「賀茂別雷神社と明神川に関する歴史的考察」,京都産業大学国土利用開発研究紀要,第21号,13~31.
- ・勝矢淳雄他(2002)「鴨川に近接する地域の小学生とその保護者の鴨川への意識の調査」, 京都産業大学総合学術研究所.
- ·京都市環境局(2004)「京都市環境情報」, No.333, 京都市.
- ·京都市役所(1936)「京都市水害誌」.
- ・京都市都市緑化協会(2007)「山紫水明処」, 京のみどり, 43号.
- 藤木文雄(2008)「明治初年旧社家町絵図漫歩」、みたらしのうたかた、8号、1~13.
- ・美旗照子(1995)「悠久の京の川」, 合同出版.
- ・森谷尅久,山田光一(1980)「京の川」,角川書店.

[写真提供]

- · 金田英治氏(葵祭)
- · 平野庸子氏(北大路魯山人肖像)
- 京都府建設交通部河川課(三条大橋流失) http://www.pref.kyoto.jp/kasen/1172825060356.html

既刊の紹介

- ・みやびな川 編
- 『白川』(2010)
- ・歴史とロマンの川 編 『瀬田川・宇治川』(2010)『保津川・桂川』(2011)『芥川』(2011)
- ・なにわの川・庶民の川 編 『東横堀川・道頓堀川』(2011)

(財) 琵琶湖・淀川水質保全機構

〈企画編集〉(社)日本水環境学会関西支部川部会

(社)近畿建設協会

琵琶湖・淀川 里の川をめぐる

~ちょっと大人の散策ブック~ 〈みやびな川編〉

鴨川・明神川 (Kamogawa・Myojingawa)

〔発 行〕平成24年3月

〔発行者〕財団法人 琵琶湖・淀川水質保全機構

〒540-0008 大阪市中央区大手前1-2-15 (大手前センター ビル4F) TEL. 06(6920)3035 FAX. 06(6920)3036

<ホームページ> http://www.byq.or.jp/

散策ブックはホームページ上で閲覧することができます

BYQ, 2012 Printed in Japan

「飲める水 遊べる水辺 次世代に」

琵琶湖・淀川 里の川をめぐる ~ちょっと大人の散策ブック~

みやびな川 編

鴨川・明神川

(Kamogawa•Myojingawa)

(財) 琵琶湖・淀川水質保全機構

(社)日本水環境学会関西支部川部会

(社)近畿建設協会



「琵琶湖・淀川流域散策ブック」のねらい

(財)琵琶湖・淀川水質保全機構と(社)日本水環境学会関西支部川部会、 (社) 近畿建設協会は、大都市圏の川を水質という側面だけではなく総合的 に把握し、その機能を再評価するために川部会が2001年より行ってきた活 動の成果を基礎に、「琵琶湖・淀川流域散策ブック」をまとめることに なった。

この散策ブックは、琵琶湖・淀川流域の河川を散策する時に気軽に携帯 できるガイドブックを意図して作られており、対象河川の概要はもとよ り、流域の見どころ、名水や滝、水質や生物、その川にまつわる興味深い 話などが、豊富な写真や地図を用いて解説されている。

散策ブック全体は、「源流を行く」、「おうみの川」、「みやびな 川」、「歴史とロマンの川」、「なにわの川・庶民の川」の5編で構成さ れ、それぞれ5、6リーフレットからなる。本リーフレットでは、みやびな川編 として、京都市を南北に流れる代表的河川である鴨川とその支流である明神 川、高瀬川を取り上げた。

本ブックシリーズが、琵琶湖・淀川流域の河川に親しみを感じ、流域を 散策するための一助になることを願っている。

ねらい・日次

鴨川•明神川	の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	02
明神川と社家	家町	03
コラム1	北大路魯山人 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	07
鴨川と高瀬川	II	09
コラム2	鴨川の水質 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	10
コラム3	昭和10年の大雨 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	12
コラム4	高瀬川の埋め立て計画と保勝会 ・・・・・	13

鴨川・明神川の概要

鴨川は京都市北西部の桟敷ヶ岳を源 として、雲ヶ畑を経て鞍馬川を合流さ せ、柊野付近で京都盆地に流れ出る。 その後、京都市の中心市街地を貫流し ながら、下鳥羽付近で桂川と合流する。 流域面積は約208㎞、幹線流路延長は 約33kmの中河川である。河床の平均勾 配は1/200である。流域の約7割が山地 であるが、流域の狭さと急流が鴨川を特 徴づけ、平時の流量の少なさと豪雨時の 洪水の頻発をもたらしてきた。

河川法では雲ヶ畑から桂川との合流点 まで全川を通じて鴨川と表記している が、上流から出町の高野川との合流点 (加茂大橋)までを賀茂川、それより下流 を鴨川と書いて区別するのが慣例となっ ている。



御薗橋そばの河川標識



明神川は、賀茂川を源流として志久呂 橋下流の明神井堰から主に取水されて いる。今はゴルフ場の中になっている上 賀茂神社の御生所のそばでは御生川と なり、神社境内に入って御手洗川、なら の小川と名を変え、境内を出ると再び明 神川と呼ばれる。主流は現在は琵琶湖 疏水分線に合流している。全長約4.5km である。



鴨川•明神川流域図

2

明神川と社家町

賀茂川に架かる御薗橋を渡って左岸に御薗口町のバス停がある。東に一筋入ると上賀茂神社の一の鳥居である。鳥居を入ると大きな広場があるが、ここは元々は賀茂川の河川敷だったところである。右手に大きな斎王桜があり、紅色の桜が満開に咲く頃は多くの人が訪れる。二の鳥居をくぐると、細殿の前に大きな円錐の砂が積まれており、立砂と呼ばれる。かつて神籬の柱を立てた跡と言われ、今も立砂の天辺に松の葉が挿してあるのはその名残である。本殿の方に進むと北から明神川が御手洗川と名を変えて流れてきている。

楼門の前を流れるのは、御物忌川で、現在はゴルフ場の小池や柊野の耕地整理組合用水路から流れてきている。神具を洗った川という。楼門をくぐると、次の回廊を巡らした門の前が参拝所である。上賀茂神社には拝殿はなく、すぐに本殿と



一の鳥居



上賀茂神社の広場



斎王桜



立砂





楼門



神III



蒸堅



上賀茂神社の紅葉



ならの小川



藤原家降の歌碑

権殿が左右にある。元々、降臨地である神山 (301m)を選拝する選拝殿として造られたのだという説もある。拝んでいるところは本殿と権殿の間であるから、本殿を拝んでいるのではなく神山を拝んでいることになる。本殿と権殿は1863年(文久3)の造営で国宝、境内に散在する34の建物群は1628年(寛永5)に造営され国の重要文化財に指定されている。

上賀茂神社は、正式には<mark>賀茂別雷神社</mark>といい、祭神の賀茂別雷神は元々は賀茂氏の氏神で、水を司り明神川を守護する農耕神であった。平安京遷都の時、上賀茂神社は平安京の北の守りとして位置づけられ朝廷からの厚い崇敬を受けるようになった。賀茂氏を守る氏神から国(朝廷)を鎮護する神へと変化し、より大きな意義を持つようになった。上賀茂神社と下鴨神社は**葵祭**(賀茂祭)で有名であるが、本来これは神社への勅使の行列なのである。なお、上賀茂神社は紅葉の名所でもある。

楼門の西側で、御手洗川と御物忌川は合流し、ならの小川と名前を変える。奈良社の傍を通るので奈良の小川と言ったのが本当らしいが、楢の木々の所を通るので楢の小川というとの説もあるが、現在、この周辺に楢の木はない。藤原家隆歌碑にある有名な『風そよぐ ならの小川の夕暮れは みそぎぞ夏の しるしなりける』という古歌は、ならの小川で行なわれる夏越の祓の情景を詠んだものである。夏越の祓は今も6月30日の午後8時からかがり火を焚いて催行されている。

ならの小川は神社境内を出ると、明神川と名前を変えて南から東に流れの向きを変える。明神川は1988年(昭和63)に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定された社で事事の中を流れる。こ

03 (Kamogawa·Myojingawa) 04

のあたりは社家の屋敷が多くあったので、社家町 と呼ばれる。社家とは、明治になるまで上賀茂神 社の神職を世襲制で代々受けついできた家筋を いう。明神川、そして<mark>社家屋敷</mark>の土塀や薬医門な どの家並みと木々の緑とがおりなす景観は、独特 の雰囲気をかもし出している。

明神川沿いの社家屋敷は、明神川の流れを庭に引き入れて**造水**として、多くは再び明神川にもどしている。かつて、神社が神領として賀茂の農地を支配していたとき、明神川沿いの社家は明神川の流れを遺水によって管理していたと考えられる。

社家町で唯一公開しているのが西村家の社家庭園である。住宅は、明治に建てられた数寄屋造りであり、庭園は京都市の指定名勝となっている。12世紀ごろ作庭の社家庭園と言われてきたが、最近の研究で明治以降に社家庭園の面影を映して作庭されたものとわかった。

社家町の東端にあるのが藤木社の神木の大きなクスノキである。樹齢500年といわれており、京都市の指定保存樹になっている。藤木社には明神川守護の瀬織津姫神が祀られている。この後、明神川は住宅地の間をさらに東に流れ、多くの分流となり、あるいは再び合流したりしながら賀茂本郷地域の農業用水となっている。天明から文化の頃(1781~1818)は、下鴨神社の境内に流入していたこともあり、今でも下鴨神社に痕跡が残っている。明神川は1,300年以上前に上賀茂地域に移住してきた賀茂族が開削し、この上賀茂地域に繁栄をもたらしたものと推定されている。

藤木社をさらに少し東に行くと南北の道が鍵型 に食い違っているが、敵から攻められたときに一 気に進めないようにした名残である。この角に石



明神川と社家町



西村家社家庭園



藤木社とクスノキ



小賀玉木と石水楼の建つ井関家



井関家の薬医門



大田神社



北大路魯山人生誕地石碑

水楼という望楼の建つ井関家がある。1988年(昭和63)に京都市登録有形文化財の指定を受けた江戸後期の建物である。大きな小賀玉木が目立っているが、かつて社家の家では譲葉、榊、小賀玉木の3つを必ず植えていた。譲葉は新年の飾りに用い、榊は神事に用いる。また、小賀玉木の果実に模して神楽の鈴が作られたといわれる。ここは手作りの匂い袋をおいておられるので、薬医門の中まで入らせてもらえる。社家住宅は平屋建てであり、井関家の石水楼は明治初期に増築されたものである。

この道を北に進み、東に行くと大田神社の前に出る。道の右手に北大路魯山人生誕地石碑がある。魯山人没後50年を記念して2009年(平成21)3月に石碑が立てられたもので、揮毫は門川大作京都市長である。

コラム 1

北大路魯山人

北大路魯山人は1883年(明治16)3月 23日に上賀茂の地で生まれた。15歳で当 時流行の「一字書き」で次々と受賞を重ね、 一字書きの名手として名をあげるなど、年少 時代から非凡な才能を開花させた。明治37 年(21歳)には、第36回日本美術展覧会の 書の部に隷書「千字文」を出品し、一等賞を 受賞した。その後、書や篆刻、刻字看板を制 作し、併せて古美術と料理にも興味を持つよ うになった。大正14年(42歳)に東京で「星 岡茶寮」を開設し、仕入れ、調理などに卓越 した技量を発揮して、美食家としてもその名 を世間に知らしめた。昭和2年(44歳)には、 星岡茶寮で用いるために北鎌倉に「星岡 窯 | を築き本格的に作陶を始め、多数の優 れた作品を残した。

魯山人は、書、篆刻、陶芸、料理など幅広い

分野で人並み外れた優れた業績を残した。 昭和30年(72歳)に重要無形文化財(人間 国宝)の認定を打診されたが、固辞した。美 の追求に一生涯を掛けた偉大な巨人であっ たが、世間の名声にはまったく無頓着であっ

た。1959年 (昭和34)12 月21日、76歳 で横浜の地で 逝去し、京都 西賀茂の小谷 墓地に葬られ ている。



〔北大路魯山人〕

05 (Kamogawa·Myojingawa) (Kamogawa·Myojingawa) 06

大田神社は、上賀茂神社より古く上賀茂地域の 先住民が崇敬した神社と言われており、鎮座の 年代も明らかでない。祭神は天鈿女命で踊りの 神様である。各月の10日に行なわれる祭礼で舞 われる里神楽(一名、「ちゃんぽん神楽」といわれ る)は、初期の神楽の原型を留めており、1987年 (昭和62)に京都市登録無形民俗文化財に指定さ れている。

参道右手にある大田の沢は、京都が古代に湖 の底であった時の名残で1万年以上前に自然に できたものと言われている。1939年(昭和14)に国 の天然記念物に指定されたカキツバタ群落が有 名である。ここのカキツバタは濃紫、鮮紫の紫一 色で、藤原俊成は次のような和歌を詠んでおり、 平安時代からカキツバタの名所になっていたこと がわかる。『神山や 大田の沢の カキツバタ 深 きたのみは色にみゆらむ』

大田神社を南に下がり、明神川を越えて一筋目 を西に入ると賀茂季鷹の歌碑がある。ここは賀茂 季鷹の旧宅で、現在も子孫の方が住んでおられ る。建物は京都市の界わい景観建造物に指定さ れている。賀茂季鷹(1754~1841)は江戸末期の 有名な歌人で、和歌や狂歌に秀でていた。歌碑 は2006年(平成18)に建立された。季鷹自筆の次 の和歌が刻んである。『三芳野の よしや雲には まがふ共 雲とな散そ 山さくら花』

御薗橋の西、賀茂川沿いの1筋目の堀川通りを 下ると御土居の旧跡がある。御土居は、豊臣秀吉 が天下を統一し、都市計画の一環として1591年(天正19) に鴨川の治水をも考慮して築造した京都 全体を囲う防塁である。堀川通りの両側に御土居 が残されているが、西側の高さ3m位の御土居が よくわかる。御土居の北端である。



里神楽



大田の沢のカキツバタ群落



賀茂季鷹の歌碑



御土居の旧跡



賀茂川から見た神山



貿茂川沿いの (上) ケヤキ (右) ユリカモメの石標 (左)区民の木







鴨川公園



半木の道

賀茂川の右岸に戻り、加茂川中学の北側にも 御土居がある。この辺りは1935年(昭和10)の大雨 の時に、ここは堤防が決壊するのを必死で防ぎ何 とか三分の一のみを残して無事だったところであ る。御土居が賀茂川の氾濫から都を守る役割も あったことが理解できる。ここら辺りで北を振り返る と、きれいなお椀形をした神山が北山の峰を背景 にして独立して見える。上賀茂神社の祭神の賀 茂別雷神が降臨した山(神体山)である。

御薗橋辺りから北大路橋辺りまでは、賀茂川で も景色が最も美しいところの一つである。堤防を 下っていくと直径1mを超える数百年は経ったと思 われるケヤキの巨木もある。道路もこれらを避けて 造られている。冬季には、ユリカモメの群れが飛 び交っている。東山を見ると右が送り火で有名な 大文字山(465m)で、左が比叡山(848m)である。河 川敷は鴨川公園として順次整備されている。

上賀茂橋、北山大橋をこえると、左岸に府立植 物園の森が見えてくる。ここから次の北大路橋近 くまでが植物園である。1924年(大正13)に大典記 念として開園され、総面積25万㎡、約1万2千種、 12万本の植物を栽培している。この左岸には枝垂 桜が植えられ、半木の道という。桜の季節には桜 のトンネルが連なり大勢の人出がある。賀茂川沿 いを下っていくと、落差工を落ちる水の音がドウド ウと聞こえてくるなど川沿いの広がりを感じる雰囲 気を味わうことができる。季節によっては、落差工 から落ちてくる小魚を狙って白サギなどがじっと水 面を見ている姿がある。





[Kamogawa·Myojingawa] 08 07 [Kamogawa·Mvojingawa]

3

鴨川と高瀬川

賀茂川沿いをさらに歩くと、出町の三角州に到着する。東の高野川と賀茂川で囲まれ下鴨神社があり、出町の三角州から北ただすの方向にこんもりと茂った下鴨神社の乳の森が見えてくる。

礼の森は国の史跡となっており、平安京 以前の山城原野の面影を今に残すといわれ、ケヤキ、エノキ、ムクノキのニレ科の巨 木がある。1934年(昭和9)の室戸台風で多 くの樹木が倒れたので、クスノキを大量に 植えた。現在はクスノキが大きな木の50% 以上を占め、植生を変えてしまうとの声もあ る。礼の森に囲まれた参道を進むと、まず 左側に相生社がある。連理の賢木(2本の

木の幹が途中で一本に連なった もの。現在の樹種はシリブカガシ である)があり、縁結びの神様の 神力の象徴として若い二人連れ に人気の社である。



出町の三角州



正面にまず見上げる大きな朱色の<mark>楼門</mark>がある。楼門の一番上の部分、すなわち棟を見ると徳川の三つ葉葵の紋が金色に燦然と輝いている。鬼瓦の位置にも三つ葉葵がある。本殿を参拝して上を見ても、妻面の飾りは三つ葉葵である。江戸時代、両賀茂社は徳川幕府に庇護されていたことの名残である。両賀茂社の神紋はそれぞれ形は違うがどちらも双葉葵であり、これは実在の植物であるが三つ葉葵は実在しない。賀茂社の神紋と同じでは恐れ多いので三つ葉にしたとか、賀茂社の上をいくために三つ葉にしたとか色々の説がある。

下鴨神社は、正式には賀茂御祖神社と





楼門

いい、上賀茂神社の祭神(賀茂別雷神)の母親 である玉依媛命(東本殿)と母方の祖父である賀 たけっかみのみこと 茂建角身命(西本殿)が祀られている。下鴨神社 も拝殿はなく、透廊がその代わりをしている。東 側の朱色の輪橋の西際に紅梅があるが、光琳の 梅と言われる。







輪橋と光琳の梅

連理の腎木

(上) 三つ葉葵の入った鬼瓦(下) 双葉葵

コラム 2

鴨川の水質

昭和20年代は子供の水遊び場だった鴨川も、昭和30年代には戦後の復興による生産活動の活発化と河川などに構っておられない生活の貧しさによって、染色廃水で赤や青に染まって流れ、また家庭ごみの捨て場となっていた。1966年度(昭和41)でBOD年平均値は29mg/Lであった。この前後をピークとする鴨川の汚濁は、水質汚濁防止法の施行や住民と行政のたゆまぬ努力と恊働によって、鴨川の水質は見違えるようにきれいになり、さらにきれいな河川環境が整備・維持されるようになってきた。BOD値でみれば2009年度(平成21)では年平均1.1mg/Lになっている。

しかし、きれいな鴨川が復活したかと言われれば疑問も感じる。一つは川底のヘドロである。1935年(昭和10)の洪水以来、砂防にも力を入れ柊野堰堤の建設や山間部に砂防

ダムを造ってきた。このため水の流れが緩やかになるとともに砂、砂利の供給が無くなり、川底の自然な更新ができなくなった。これが、川底の汚れの除去を不可能にし、さらには中州の陸地化を増大させているのであろう。一つの問題を解決すると、また新たな問題が起ってくる。難しいところである。



09 (Kamogawa Myojingawa)

丸太町橋の少し上流の西側に、江戸時代後期の儒学者である頼山陽(1780~1832)の山紫水明処がある。山陽は、東山が眺望できるこの場所に茅葺屋根の住居を建てた。ここから鴨川の向こうに広がる東山の眺めを「風景無双」と愛したと言う。鴨川の広がりは今も残っているが、ビルが建てこんで東山までを広く窺うのは困難となっている。山陽は茶の湯、とくに煎茶を好み、親しい友人が訪れると、鴨川の水を汲んで煎茶をふるまったということである。大正11年(1922)に国の史跡に指定され、現在に至っている。丸太町橋南西角には日本の高等女学校の始まりである女紅場址の石碑がある。

二条大橋を少し下がったところに鴨川の河川敷を流れる製川の流れを庭園に取り入れている場所がある。ここは角倉了以別邸跡(現在、がんこ寿司)である。禊川のこの辺りから下流には、夏になれば鴨川沿いの料理屋は床を禊川の上に出す。鴨川を吹く涼風を楽しみながら料理を賞味する夏の鴨川の風物詩である。

二条通りを西に行くと南北の木屋町通りに出会うが、この辺りは木屋町通りが広くなっている。ここは日本最初の路面電車である京電が木屋町通りを走っていたころの終点であった。禊川から取り入れた流れは、東側の角倉別邸の庭園を遣水として流れた後、高瀬川を流れ下る。西側は島津製作所創業の地で島津製作所創業記念資料館がある。初代の島津源蔵は、ここから北に200mの所にあった舎密局に通って指導を受けた。

その南側が角倉本邸址(現在、日本銀行)である。本邸は南側の一之船入に面しており、本邸から高瀬舟の荷降ろしをいつも見ていることが出来るようにしていた。船入は高瀬船の荷降ろしと舟



山紫水明処



女紅揚址



禊川



角倉了以別邸跡



島津製作所創業記念資料館



角倉本邸址



一之船入





(右) 桂小五郎幾松寓居即 (左) 武市瑞山寓居跡



角倉了以翁顕彰碑



都名所図会より高瀬川



佐久間象山と大村益次郎の遭難碑

の方向転換場所で、柵の向こうに奥深く水面が 続いているのがわかる。二条から四条間で9つの 船入があった。四条までの高瀬川沿いには多く の駒札、石碑、石標が設置されている。桂小五郎 幾松寓居趾、加賀藩邸跡、武市瑞山寓居跡、土 佐藩邸跡、角倉了以翁顕彰碑、本間精一郎遭難 碑、舟入址などがある。

高瀬川は、角倉了以が1611年(慶長16)から3年、7万5千両の巨費をかけて、木屋町二条から伏見三栖浜までの10kmを開削したものである。大阪からの物資が三十石船で淀川を遡って伏見に到着し、それを京に運ぶ大動脈であった。1920年(大正9)までの306年間にわたって運行された。

南に下がると、広い<mark>御池通り</mark>に交差する少し手前の高瀬川の西側に、佐久間象山と大村益次郎

コラム ③ 昭和10年の大雨

加入血

鴨川の過去の歴史は水害との戦いの歴史でもあった。平安京への遷都以来、鴨川の洪水には悩まされており、平安時代初期の824年(天長元)には、鴨川の治水工事を担当する防鴨河使(ぼうがし)という官職がおかれ、水害の防止にあたった。しかし、十分な成果は上がらなかったようである。平安文化が最盛期を迎える頃より洪水の被害が多くなり、白河法皇の院政時代以降はますますその回数も被害も大きくなった。当時としてもっとも力のあった白河法皇(1053~1129)が「朕(ちん)が心に任せぬものは、鴨川の水、スゴロクの賽、山法師のみ」と三不如意の嘆きを発せられるほどの暴れ川であった。

1935年(昭和10)6月29日に京都をおそった豪雨は、降雨量270mmとなり洪水となって市内の広範囲の浸水のみならず大きな被害をもたらした。三条大橋を始め30以上の橋を流失させ、無傷で残ったのは北大路橋、加茂

大橋、五条大橋の3橋にすぎなかった。

この被害を受け、昭和11年から鴨川の大規模な改修工事に着手し、柊野堰堤の建設から、河道の掘削や拡幅、落差工の建設などの改修工事を行った。その結果、昭和10年を上回る降雨があった1959年(昭和34)8月の289mm、1983年(昭和58)9月の258mm、2009年(平成21)7月の323mmの降雨でも大きな被害は免れることができた。最近は約25年ごとに強い降雨が降っている。



〔昭和10年三条大橋流失〕

11 (Kamogawa·Myojingawa) 12

の遭難碑がある。佐久間象山(1811~1864)は、 勝海舟、吉田松陰、橋本左内などを指導した大 思想家であるが、公武合体、開国遷都を主張し 尊攘派の川上彦斎らに暗殺された。大村益次郎 (1824~1869)は陸軍の創設者であるが、三条木 屋町の旅宿で不平士族に襲われて亡くなった。

御池通りは、地下に駐車場が整備され、地上は 噴水がさわやかさを演出し、夜間は照明で7色に 輝いている。国際コンペをして整備されたもので ある。三条小橋の南西側に安藤忠雄の設計した タイムスビルがあり日本建築学会賞を受賞した。 石垣を崩して低くして水に親しめるように設計し たのが特徴である。しかし、京都市は周辺地域の 浸水を懸念して、それまで30cm以上あった高瀬 川の水深を10cm以下にしてしまった。高瀬川の 風情は著しく低下した。

東側には瑞泉寺(境内無料)がある。高瀬川開





タイムスビル









出雲の阿国像

削に際して、角倉了以は豊臣秀次と三条河原で 斬殺された妻妾や子供ら30余名の菩提を弔うた めに建立した。境内には秀次の六角塚とそれを 取り巻くように家族らの石柱が並んでいる。

三条小橋に戻って、東にいけば**三条大橋**であ る。秀吉が1590年(天正1815)に増田長盛に命じ て造らせたものである。橋の西北に創建当時の 橋脚である石柱が置かれている。また、現在の大 橋の橋脚の南側の一列も創建当時の石柱であ る。欄干の柱頭のネギ坊主型の擬宝珠は、1935 年(昭和10)の大雨で行方不明になった2つ以外 は、創建当時のものである。三条大橋は東海道 五十三次の終点なので、橋の西南角には弥次さ 高山彦九郎の銅像 **ん喜多さんの像**がある。三条大橋の東には、寛 永の三奇人と言われた**高山彦九郎の銅像**が御所 を遥拝している。鴨川公園として整備された河川 敷に降りて、四条大橋まで歩くと、橋の東側には 歌舞伎の元祖である出雲の阿国像がある。

高瀬川の埋め立て計画と保勝会 コラム 4

高瀬川はこれまで3度、埋め立ての危機に さらされた。高瀬川の舟運が廃止になる1年 前の1919年(大正8)に、都市計画の一環と して、この高瀬川を暗渠にして道路を広げ、そ こに市電を走らせる案が京都市区改正委員 会で可決された。これに対して、たちまち猛烈 な反対運動がおこり、沿線住民は「高瀬川保 存会」を結成し、市民大会、反対署名(4千 名)、都市計画委員7人への辞職勧告書、デ モ行進、反対演説会を行った。計画変更の運 動は2年以上にわたって続いた。京都市議会 もこの意見を無視できず、ついに、市電を走ら せる計画は河原町通りに変更し、高瀬川は やっと救われた。高瀬川保存会は、高瀬川保 勝会と改称して今も桜祭などを実施している。

昭和30年代には周辺地域の路上駐車対

策として駐車場計画、昭和40年代には河原 町通りの交通緩和のためのバイパス計画が 持ち上がったが、いずれも地元住民の強い反 対で中止となった。現在は、京都市も遊歩道 として整備しだしている。



高瀬川と桜)



対家町を流れる明神川

13 [Kamogawa·Myojingawa] [Kamogawa·Myojingawa] 14